

研 究 分 野	増養殖技術	部 名	磯根資源部
研 究 課 題 名	海辺の海草藻場再生推進事業		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H16～		
担 当	長根幸人		
協 力 ・ 分 担 関 係	川内町漁協、下北地方農林水産事務所むつ水産事務所普及課		

〈目的〉

陸奥湾にはアマモ類による海草藻場がみられ、漁業にとって多様で重要な役割を果たしている。しかし、夏泊半島や下北半島の一部などで藻場が衰退、消失した。このため、スゲアマモ藻場の回復を目的に、水産資源の増大効果と水域環境浄化効果を把握する。

〈試験研究方法〉

平成 16 年 4 月 30 日から 5 月 7 日までの 8 日間、川内町田野沢地先水深 8.0m の地点の 1,000 m² (20×50m) を試験区とし、川内町川内地先の水深 3m から採取した 30 シュートからなるスゲアマモ栄養株を 50cm 間隔で 4,141 株移植した。移植開始から 8 日後の平成 16 年 5 月 7 日には、試験区の 10m 四方 (100 m²) に蛸集する生物を観察した。平成 16 年 10 月 7 日には、移植株の脱落状況を観察し蛸集する底棲生物を採取した。

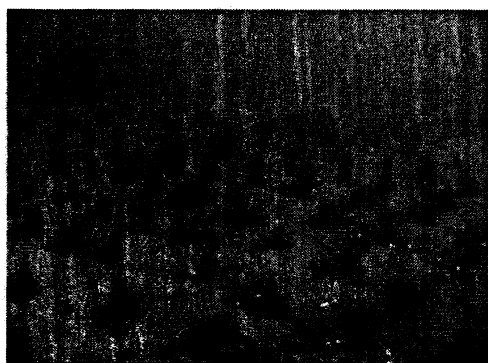


図1 川内町田野沢地先にスゲアマモを移植して設置した試験区

〈結果の概要・要約〉

平成 16 年 5 月 7 日の観察では、マナマコ 16 個体 1,999g、イトマキヒトデ 80 個体 3,743g、ヒトデ 80 個体 3,051g、タコヒトデ、エゾヒトデ、キタムラサキウニ、ハスノハカシパン、トゲクリガニ、マガレイが観察された(表1)。

平成 15 年 10 月 5 日の調査では、試験区の 21%にあたる 207 m² に生育する 1,128 株が脱落若しくはキタムラサキウニの被害を受け消失した。試験区からは、マナマコ 422 個体、36,508g 採捕された。マナマコは平均重量が 85.6g であり、全体の 74.8% が湿重量 100g 以下の小型個体であった(図 3)。キタムラサキウニ 1,136 個体、59,202g、ハスノハカシパン 101,423g が採取された。また、マダイ(尾叉長 150mm)の群泳と、全長 50mm、200mm のマコガレイが確認された。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 平成16年5月7日スゲアマモ栄養株を移植した試験区の100㎡に蛸集した底棲生物

生物名	個体数	平均重量	総重量
		g	g
マナマコ	16	124.9	1,999.0
イトマキヒトデ	80	46.8	3,743.0
ヒトデ	80	38.1	3,051.0
タコヒトデ	6	32.5	195.2
エンヒトデ	1	3.8	3.8
キタムラサキウニ	2	45.7	91.3
ハスノハカシパン	2	8.8	17.5
合計	187		9,101

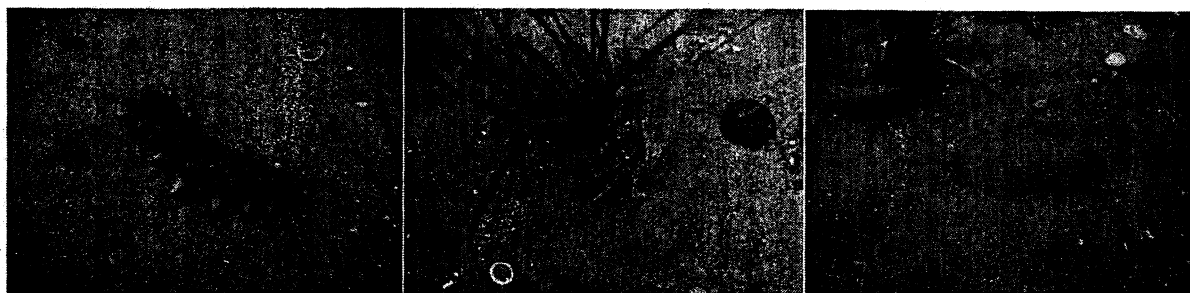


図2 平成16年5月7日に試験区に観察されたマナマコ(左)、トゲクリガニ(中央)及びマコガレイ(右)

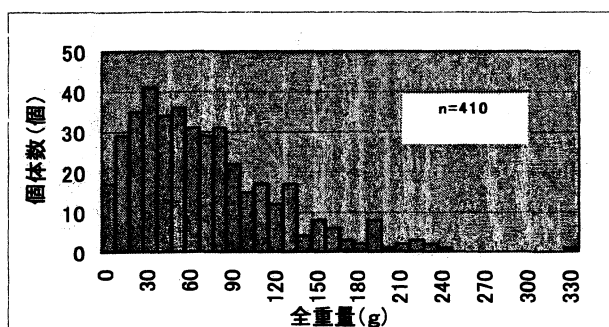


図3 平成16年10月7日に川内町田野沢地先で採取されたマナマコの湿重量の組成

〈次年度の具体的計画〉

試験区でのカレイ類、メバル類、マダイなど魚類稚魚やトゲクリガニの保護育成効果、マナマコ、エゾバフンウニの育成、給餌効果の調査を通じて、藻場造成による漁業生産上の効果を明らかにする。

併せて、試験区に放流したマコガレイ人工種苗の棲息状況と摂餌内容物から、スゲアマモ藻場によるマコガレイ放流漁場としての造成価値を明らかにする。